

相馬愛蔵と中村屋
(No186 2014.5.21 発行)



「中村屋」の創業者
相馬愛蔵・黒光夫妻

時代の先を読む

日本に純インド式カリ（カレー）を広めたことで有名な新宿中村屋。その創業者で安曇野出身の相馬愛蔵を特集した記事です。現在の穂高白金区の農家に生まれた愛蔵は、その後上京し、中村屋を創業します。東京大学正門前のパン屋を買い取り開業すると、当時まだ閑散としていた新宿に目をつけ、「将来の発展の上から市内電車の終点以外に適地はない」と現在の新宿区に店を移転しました。月餅・中華まんなど人気商品を生み出した背景には、時代を先読みする商業的センスと必要以上の利益を求めない正札主義の精神があったのです。

安曇野と中村屋の縁

相馬愛蔵と妻の黒光は、多くの芸術家を支援したことも有名です。その中には安曇野出身の彫刻家、萩原碌山（守衛）がいました。相馬夫妻は同郷である碌山のアート工を支援し、やがてそこには多くの芸術家が入りやすくなるようになります。その様子はまるで中世ヨーロッパのサロンの様であったため、「中村屋サロン」と呼ばれました。しかし、碌山は30歳という若さで他界。没後、現在の穂高に建てられた碌山美術館の扉には、今も中村屋の文字が残っています。100年以上前から現代まで続く縁。中村屋では毎年安曇野市内で新入社員研修を行っています。安曇野市は平成26年に株式会社中村屋を観光大使に任命しました。安曇野出身の偉人たちの歴史をぜひ知っていただければと思います。

最後は、ピンチヒッター的な！ A.O



さとぶろ。里山再生に向けて
(No246 2017.3.15 発行)

里山を守れ！

市では、里山が抱える問題を明らかにし、次代につながる里山の再生を目指すため、平成27年3月に「安曇野市里山再生計画」を策定しています。その計画策定時に市民の皆さんにお知らせしようと、広報紙で特集が組まれました。

かつて里山は人里近くに広がり、私たちの暮らしと共に成り立っていました。しかし、現在は生活スタイルの変化により、山に入ることも減り、利用されることがほとんどなくなり、利用されることがほとんどなくなり、手入れが行き届かず放置され、荒れてしまいう里山が多くなりました。

そこで、「さとぶろ。」による取り組みがスタート。里山に関心をもち、共に楽しみ、知恵や力を出し合いながら、里山再生につながる仲間「さとぶろ。サポーター」を募集し、市民、山林所有者、事業者などの皆さんと行政の協働により、5つのプロジェクトが始まりました。



積み木に触れ、夢中で遊ぶ子ども達

里山の恵み、良さを広める

現在の取り組みを知るため、10月5日に「第4回あづみの里山市」取材。里山市は、市内の里山から伐り出した「安曇野材」を身近に感じ、気軽に触れることのできる体験型イベントです。「さとぶろ。」に当初から関わる羽賀浩之さんは、「何十年後を生きる子ども達のためにも、里山の環境を残したい。里山再生という課題に対し、理論的に計画を立てるだけでなく、これまで仲間達と楽しみながら、精一杯活動を実践してきた。意義のある活動に関わって嬉し」と話します。

本年度は5カ年計画の最終年。今までの活動の成果や課題を、現在策定中の「第2次計画」に反映し、来年度は更なる推進を目指します。今後の取り組みに期待ください！

市民の皆さんと共に

広報あづみの、毎号読んでいます。特に、子育てに関するイベントや申請などの情報は確認するようにしていて、今は対象外でも子どもが大きくなったら…という目線でチェックしています。読んでいけば、市の方針も見えてきます。これからも分かりやすい広報紙を届けてほしいです。



塚原 萌さん

広報あづみの、私にとって市の情報源です。季節のイベントや市内の出来事が分かりやすく書かれていて、身近で親しみやすい広報紙だと思います。「少し堅いな」と思うこともあるので、より遊び心をもって、今後もさまざまな情報を届けてほしいと思います。



柴野 和哉さん

寄り添える広報紙を

注目！ News

来月号の表紙
権利プレゼント★

皆さんの声をお寄せください

日頃、「広報あづみの」を読んでいて感じたこと、今後取り上げてほしいことなど、何でも自由にご意見をお寄せください。応募者の中から抽選により、「広報あづみの302号（11月20日発行号）」の表紙に出演いただく権利をプレゼントします。撮影は、別途日時等を相談させていただき、秘書広報課の職員が行います。

対象は安曇野市民に限ります。応募は、下記の必要事項を記入いただき（書式自由）、郵送、ファクスまたは秘書広報課（2階西側）へ直接提出ください。応募締め切りは、10月30日（水）まで、必着をお願いします。

【必要事項】①氏名 ②年齢・性別 ③住所 ④電話番号
⑤「広報あづみの」の感想など

市政施行15年目へ

安曇野市は旧5町村の合併により誕生し、本年10月1日に市制施行15年目に入りました。広報紙も早いもので300号となり、これまでの市の歩みを、紙面を通して紹介し、記録を刻んでまいりました。

市では、広報紙の発行のほかにホームページやラジオなど、それぞれのツールの特性を生かし、より効果的な情報発信に努めています。これからも市民の皆さん一人ひとりと行政情報を共有しあい、より良い関係を築いていきたいと思ひます。



市長 宮澤 宗弘

無料アプリ「マチイロ」

簡単な利用登録をすれば、発行日にお知らせが届くため、大切な情報も見逃しません。



また、興味のある分野にしばった、情報をご覧いただけます。あなたのスマホに、ぜひアプリをダウンロードください。

http://machihiro.town/

取材や写真撮影にご協力を

広報紙などの取材のため、イベントなどの際に写真撮影を行っています。その際には腕章を着用していますので、ご理解とご協力をお願いします。また、取材写真は次の利用目的の範囲内で使用します。



- ・市の発行物
- ・市のホームページ
- ・市の記録資料としての保存・活用
- ・その他（友好都市への提供など）